

## シンガポール研修

教育学科 2年

私がこのシンガポール研修に参加した理由は二つある。1つ目は、海外に行ったことがなく日本以外の国を肌で感じてみたいと思ったからだ。2つ目は、小学校、幼稚園、保育園などの現地の教育現場を見学できるプランのある研修だったので、将来小学校教師を目指している私にとって得ることが大きいのではないかと考えたからである。5泊6日、一言で言い表すとあっという間であった。だが、一言で言い表したらいけないくらい私にとっては濃い6日間だった。



現地の教育現場見学にあたって小学校、幼稚園、保育園、インターナショナルスクールの4校へと見学に行った。事前にシンガポールの教育について調べた時、シンガポールの教育レベルは世界でもトップクラスであると表記されていたので、こういった教育をしているのかとても興味があった。



小学校を見学してみて、学校の設備がとても充実していることに驚いた。ダンススタジオやトランポリン、平均台、鉄棒などが置いてあるスポーツ室など大学にあるような専門的な教室が多くあった。シンガポールの小学校カリキュラムにはCCAというものがある。CCAとは、音楽、アート、スポーツなど子どもの能力を伸ばす項目であり、小さい頃から自分のやりたいことを見つけるためにあるカリキュラムである。日本の小学校で言うとクラブ活動のような活動だ。先生のお話や子どもたちの生活の様子を見て、このCCAにシンガポールの小学校は力を入れているのだと感じた。また、日本とは違う教育のシステムもたくさんあった。その中のひとつがバディシステムというものだ。このシステムは、高学年の子が低学年の子と2人1組でペアを組んで学校の仕組みを知るというものである。私たちが見学した小学校は給食がなく、購買のような所で皆好きな食べ物を買って食べていた。その時のお金の払い方など、学校生活に関することの大半を高学年の子から学ぶ。このような取り組みにより、子どもたち同士で学校の仕組みを学んでいくことを知った。小学校を見学してみて、シンガポールの小学校は学ぼうという意識が高いなと思った。私は、社会の授業と音楽の授業を見学させてもらった。音楽の授業ではダンスに参



加させてもらい、子どもたちと一緒に踊り、とても貴重な体験をすることができた。

小学校も日本とは違い、驚く部分がたくさんあったが、私は幼稚園の方が印象的だった。最初に感じたのは、シンガポールの幼稚園は教育レベルが高すぎるということだ。毎日新聞を読んだり、英語のほかに中国語の授業があったり、2～3歳の小さい子がプールで顔をつけて泳ぐ練習をしたりなどとてもスパルタ教育のように私の目には映った。だが、子どもたちをよく見てみると皆目をキラキラさせて何事も楽しそうに取り組んでいた。私の幼稚園、保育園に対しての考え方として、学びというより遊びが中心だと思っていた。だが、シンガポールの幼稚園は学びが遊びになっていたのだ。子どもたちは学びを楽しんでいるのである。この教育の仕方、考え方で子どもたちの知りたい、学びたいという意識がこんなにも違うのだなと思った。



シンガポールの小学校では、最高学年の6年生のときに次の中学校ステップアップするための大きな試験がある。この試験で、中学校へ進み大学進学の道を歩むのか、それとも技術系の学校に行くのかが決まる。なので、小学生のほとんどが学校を終えてから塾に通っているのだという。先生も子どもたちもとても教育熱心だと感じたが、一番に保護者が教育に対しての思いが強いなと思った。人によって違うが日本では、高校受験が一番力を入れる人が多いと思う。だが、シンガポールではどの幼稚園、保育園に入るか、小学校を卒業する時に行われる試験に向けて力を入れる。教育の仕組みの違いを感じた。同じ小学校教育、幼稚園、保育園教育でも日本と違う部分がたくさんあってとても刺激的だった。

今回、見学しただけではなく、皆で指導案を作り模擬授業を行った。折り紙を教えたり、ペープサートを使って絵本の物語を表現したり手遊びをした。私はぜんぜん英語が流暢なわけではないので不安が大きかったが、周りの方の支えもあり自分なりに精一杯できたと思う。子どもたちに日本の文化を知ってもらえたこと、何より楽しんでくれたことが嬉しかった。



シンガポール研修に行って、現地の教育現場を肌で感じ子どもたちと触れ合い、数え切れないことを学んだ。そして、今までよりさらに教師になりたいと強く思えた。研修で得たことは計り知れない。指導案作りや模擬授業などこれからの活動にこのシンガポール研修で学んだことを生かしていきたい。